

北陸新幹線（敦賀・大阪間）の整備促進に関する決議（案）

北陸新幹線は、大規模災害時において東海道新幹線の代替機能を果たすとともに、東北・北陸・関西・山陰などをつなぐ日本海国土軸の形成に必要な不可欠な国家プロジェクトである。

敦賀・大阪間については、昨年3月に全区間のルートが決定され、現在、駅・ルート公表に向けた詳細調査が進められているところであるが、国土交通省によると、新大阪駅までの全線開業時期は、約30年後の2046年となっている。

しかし、北陸新幹線の開業効果を早期に発現させるためには、1日も早い着工と新大阪駅までの全線開業が不可欠である。

このため、政府・与党において、沿線地域の意見を踏まえながら、駅・ルート公表に向けた詳細調査および環境アセスメントを地元調整も含め丁寧かつ迅速に進め、これと並行して、早期に建設財源を確保するとともに、環境アセスメント終了後、間断なく敦賀・大阪間について一気に整備し、全線開業を1日も早く実現すること。

国土交通省の地方創生回廊中央駅構想において新幹線ネットワークのハブと位置付けられている新大阪駅についても、事業スキームの早期検討のための予算を確保すること。

あわせて、新大阪駅までの全線開業までの間、敦賀駅において新幹線と特急との乗換が生じることから、北陸・関西間の円滑な流動性を確保するため、既存の運行計画にも配慮しながら、乗換利便性の確保を図ること。

上記について、強く要望する。

以上、決議する。

平成30年11月30日

北陸新幹線（敦賀・大阪間）建設促進大会